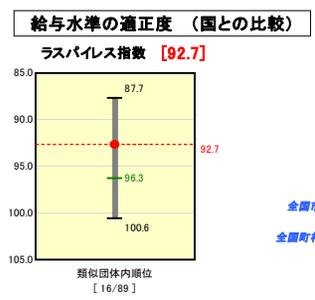
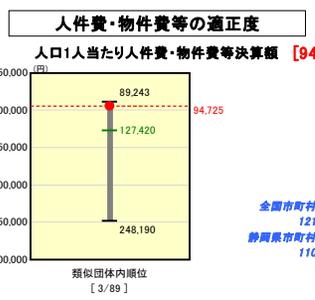
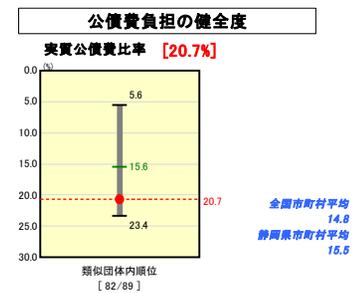
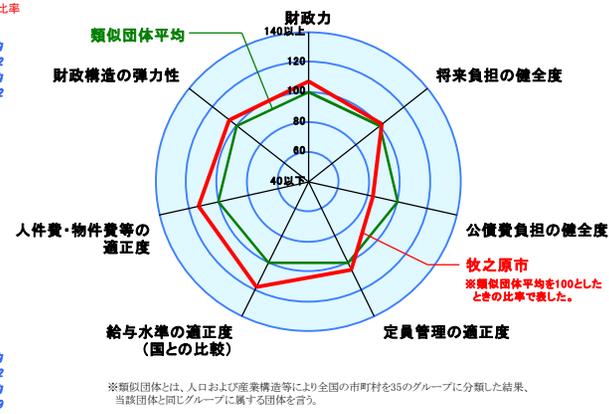
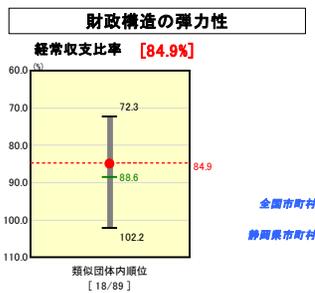
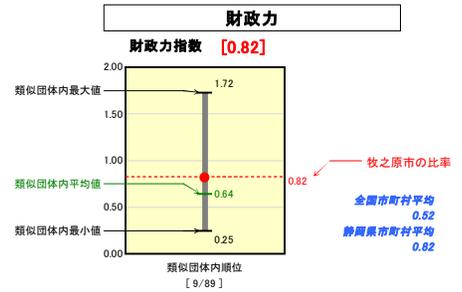


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

静岡県 牧之原市

人口	50,877 人(H18.3.31現在)
面積	111.50 km ²
歳入総額	19,085,847 千円
歳出総額	18,275,890 千円
実質収支	716,993 千円



※人件費、物件費及び維持補修費の会計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数 : この5年間で連続した伸びを見ており、0.82となっている。地方税は平成13年度の79億4,470万円がピークで以後減少が続いているが、景気の回復等により17年度から増加に転じた。しかし、基準財政収入額が増大したと見うより、人口の減少等により需要額が低下していることが影響している。今後は企業課税の専門部署や納税推進体制を強化して財政基盤の強化に努める。

経常収支比率 : 扶助費、公債費等の増加により比率が上昇している。17年度の合併を契機に行財政改革を積極的に推進し、さらに集中改革プランによる定員管理計画を着実に実施し、職員数の削減、給与費の適正化に努め、上昇傾向を抑制する。

実質公債費比率 : 病院や消防、ごみ処理業務等の一部事務組合で実施しており、その施設整備による償還金と昭和48年から実施している土地改良事業の負担金が率公債費として算定されたため、経費削減比率は10%台にもかかわらず、高率となり、経費執行の同意基準を超えてしまった。今後は策定した公債費負担適正化計画による財政運営に心がけ、10年以内に18%未満に低減するよう努める。

人口1人当たり地方債現在高 : 類似団体平均値を下回っているが、一部事務組合等の地方債残高が含まれていないため、これを含めると平均をかなり上回る金額(34,900円)となっている。病院、ごみ処理施設の改修事業による地方債や土地改良事業にかかる借入金が必要となっているが、公債費負担適正化計画の実行により地方債残高の削減に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 : 類似団体平均と比較して、人件費・物件費等は非常に低くなっているが、これはゴミ処理業務、消防業務等一部事務組合で行っていることが挙げられる。統計上、一部事務組合の人員費・物件費は別の職員に集計しているためこの数値に計算されていないが、この費用を合算した場合、人口1人当たりの金額は上昇することになる。今後はこれらも含めた経費について、抑制していく必要がある。

ラスパイス指数 : 合併前から2町のラスパイスは91～95程度であったが、平成17年10月の合併時にはそれぞれ8種類あった特殊勤務手当を3種類に削減するとともに、平成18年4月1日には歳と同様に給料表の水準引き下げ、歳給の統合、特外昇給の廃止等給与構造の見直しを行い、平成18年4月1日現在のラスパイスは92.7となっている。平成19年度には、職員の給料カット(全職員1%)を実施することとなり、一層の給与削減を目指す。

人口1,000人当たり職員数 : 定員適正化計画では、平成17年度の職員数432人から平成22年度には408人に削減(▲5.6%)する予定で、平成18年4月1日現在の職員数は426人で人員減(▲1.4%)である。平成18年度においては、市02つの庁舎に分かれていた清掃業務を一方の庁舎に統合するなど効率的な業務運行のできる組織への改革を行っているが、今後もより効率的な体制を整えることで計画どおり採用を職員の3分の2程度に抑え、目標数値の達成を目指す。